

18. 大果で甘い渋柿の新品種「太天」^{たいてん}

1. 背景とねらい

県中北部では古くから「西条」や「祇園坊」が栽培されている。しかし、産地では、果頂部軟化などの果実品質の低下が発生している。そこで、(独)農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所で育成された登録予定品種のなかで、有望と思われる渋柿の新品種「太天(たいてん)」(図1)の特性を明らかにする。

2. 成果の内容

- 1) 「太天」の交配組合せは、「黒熊」×「太秋」で、系統番号「安芸津 21 号」として、第6回カキ系統適応性・特性検定試験に供試され、本県も含めた各県の試験結果をもとに、2007年に命名登録された。
- 2) 成熟期は、「西条」と「祇園坊」の後、「富有」と同時期(安芸津では11月上中旬)である(表1)。
- 3) 果実重は約450gで大きく、果汁は「太秋」同様に多汁で、糖度は「平核無」より優れ「西条」と同等である(表1)。
- 4) 果形は、偏円形で、収穫時の果頂部の軟化は認められない(表1)。
- 5) 不完全渋柿であり、種子の周りに褐斑ができる(表1)。
- 6) 日持ち性は、「西条」や「祇園坊」より長い(表1)。
- 7) 以上の結果から、カキ「太天」は、「西条」や「祇園坊」の後に熟す、果実の大きな渋柿として有望である。

3. 利用上の留意点

- 1) 「太天」は、受粉樹の混植と炭そ病の防除が必要である。
- 2) 雌花の着生は、良好である。
- 3) 県内中北部の渋柿産地に導入できる。

(果樹研究部)

4. 具体的データ

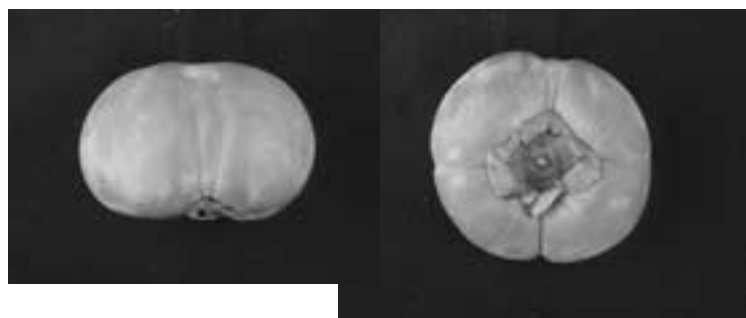


図1 「太天」の果実



図2 「太天」の着果状況

表1 カキ「太天」と対照品種の果実形質

品種名	収穫盛期 (月/日)	果実重 (g)	果形 (縦断面)	果頂部 軟化 状況	糖度 (° Brix)	褐斑の 多少	果汁の 多少	食味	日持 ち性 (日)
太天	11/18	483	偏円	無	16.6	多 (種子周辺)	多	上	11
富有	11/17	297	偏円	無	15.0	少	多	上	22
太秋	11/5	387	偏円	無	16.3	なし	多	上	-
平核無	10/25	204	方	無	14.8	なし	多	中の上	14
西条	10/14	230	楕円	有	16.5	少	多	上	3
祇園坊	10/17	246	楔	有	15.0	なし	中	上	8

注) 調査場所：農業技術センター果樹研究部ほ場（東広島市安芸津町）
調査期間：2004～2007年